

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	邦舞
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	4企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要

ふりがな	かぶしがいいしゃぼつくすよろづや		
制作団体名	株式会社BOX4628		
代表者職・氏名	代表取締役 滝沢直也		団体ウェブサイトURL
			http://box4628.jp/
制作団体所在地	〒171-0014	最寄駅(バス停)	東京メトロ 要町駅
	東京都豊島区池袋3-1-12-702		
制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
ふりがな	おきなわでんとうくみおどり しーのかい		
公演団体名	沖縄伝統組踊「子の会」		
代表者職・氏名	会長 大城建大郎		団体ウェブサイトURL
			https://www.nt-okinawa.or.jp/kumiodori-trainee/shiinokai
公演団体所在地	〒901-1113	最寄駅(バス停)	喜屋武
	沖縄県島尻郡南風原町喜屋武71 モダンアヴェニューE.K. II 202		
制作団体 設立年月	平成27年 4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	・代表取締役: 滝沢直也 伝統芸能プロデューサー 伝統芸能舞台監督 ・取締役: 榎本かおり 経理・制作 ・顧問・相談役: 織田紘二 元国立劇場理事 ・顧問: 廣木雅之 行政書士 ・相談役: 川満香多 琉球舞踊・組踊立方 ・相談役: 大城建大郎 琉球古典音楽演奏家 沖縄県立芸術大学 非常勤講師 沖縄伝統組踊子の会 会長	・組踊・琉球舞踊 立方: 30名 ・琉球古典音楽 演奏家: 30名 ・琉球芸能有識者: 2名 ・制作・推進スタッフ: 2名 ・照明スタッフ: 3名 ・音響スタッフ: 3名 ・大道具製作・小道具製作スタッフ: 3名 ・舞台美術(装置)家: 3名 ・衣装スタッフ: 2名 ・床山・かつらスタッフ: 2名 加入条件: 当団体の活動に賛同し、伝統芸能に携わる実演家や有識者、また舞台芸術技術スタッフ	

事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	榎本かおり
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	税理士 大塚康正 (おおつか税理士事務所)
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
	box4628_nk@yahoo.co.jp		0369070569

制作団体の実績	制作団体沿革・ 主な受賞歴	2013年 制作会社BOX4628として発足、現住所に所在地を置く 2015年 法人格を取得、株式会社BOX4628 2015年 日本財団主催による「にっぽん文楽」六本木公演のアシスタントプロデューサーを務める 2017年 「平成29年度文化芸術による子供の育成事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2018年 「平成30年度文化芸術による子供の育成事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2019年 「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2020年 「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2021年 「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択(2団体) 沖縄伝統組踊「子の会」、一般社団法人善竹狂言事務所 2022年 「令和4年度文化芸術による子供育成推進事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2023年 「令和5年度学校巡回公演事業」採択 沖縄伝統組踊「子の会」、沖縄大琉球芸能専攻OB会 2024年 「令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」、沖縄大琉球芸能専攻OB会、一般社団法人善竹狂言会 2025年 「令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」、沖縄大琉球芸能専攻OB会
	学校等における 公演実績	2013年 組踊鑑賞会「執心鐘入」3校、「狂言教室」6校、「落語教室」6校 2014年 組踊鑑賞会「執心鐘入」17校、「狂言教室」4校、「落語教室」10校 2015年 組踊鑑賞会「執心鐘入」20校、「狂言教室」5校、「落語教室」10校 2016年 組踊鑑賞会「執心鐘入」20校、「狂言教室」3校 2017年 組踊鑑賞会「執心鐘入」10校、「狂言教室」35校 2018年 組踊鑑賞会「執心鐘入」15校、「狂言教室」27校 2019年 組踊鑑賞会「執心鐘入」10校、「狂言教室」16校 2020年 組踊鑑賞会「執心鐘入」8校、「狂言教室」10校 2023年 組踊鑑賞会「執心鐘入」6校、「狂言教室」4校、「落語教室」2校 2024年 組踊鑑賞会「執心鐘入」10校、「狂言教室」10校、「落語教室」6校
	特別支援学校等にお ける公演実績	2016年 組踊鑑賞会「執心鐘入」 2018年 組踊鑑賞会「万歳敵打」 旭川養護学校 組踊鑑賞会「万歳敵打」 稚内市養護学校 2019年 組踊鑑賞会「万歳敵打」 大阪府立富田林支援学校

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/qSdqmC9Cl3Q
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: PW:

別添	あり
----	----

【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」 】

本 公 演	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	○
	企画名	おきなわ伝統芸能 琉球舞踊「四つ竹」と組踊「万歳敵討」			
	企画のねらい	この企画は、沖縄の伝統芸能である琉球舞踊と組踊に触れ、楽しく学びを深めることを目指します。 ワークショップを通じて基礎知識を習得し、本公演を鑑賞することで、子どもたちは沖縄独自の豊かな文化を肌で感じ、親しみを持つことができるでしょう。 こうした体験を通して、地域や時代背景によって異なる、言語や舞踊と演技、作品に描かれている物語のテーマ、独自の音楽性など様々な違いを知ることができます。また、現代との相違点や類似点を発見するきっかけとなり、子どもたちが多様な価値観に気づき、舞台芸術を通して社会的視野を広げ、共存共栄することの大切さを知っていただきたいのです。			
	演目概要・演目選択理由	<p>琉球舞踊「四つ竹」</p> <p>【演目概要】</p> <p>竹で作られたカスタンネットのような鳴り物、四つ竹を両手に持ち「踊りこはでさ節」の演奏にのせてカチカチと四つ竹を打ち鳴らしながら踊ります。衣装は艶やかな紅型衣装で、頭に花笠を被ります。</p> <p>【選択理由】</p> <p>古典女踊りの名作で代表的な演目です。繊細な手の動き(戴み手、抱き手など)で無上の喜びを表現します。 琉球国時代の宮廷の優雅さ、様式美の見どころが多い芸術性の高い演目を選択しました。</p> <p>組踊「万歳敵討」</p> <p>【演目概要】</p> <p>名馬を手に入れられなかった高平良御鎖が、大謝名の比屋を恨み闇討ちにしました。大謝名の比屋の息子である謝名の子と慶雲兄弟は父の敵を討つ機会を狙っていました。2人は旅芸人に姿を変えて、浜下りの場に近づき高平良御鎖を追い詰め、父の敵を討ち果たしました。</p> <p>【選択理由】</p> <p>あらすじが分かりやすく理解しやすい演目でありながら、道行による場面の移り変わりを想像することで、緊張感が終盤まで維持され、舞踊と音楽の魅力がふんだんに詰まった演目です。また、組踊の特徴である上手、下手を効果的に使い分けながら物語が進んでいきます。</p> <p>組踊は聞くものと言われるほど、地謡の演奏は重要な役割を担っています。「万歳敵討」から抜粋、再構成された琉球舞踊「高平良万歳」があるように、音楽と舞踊の見どころが多く、最後まで集中して鑑賞ができる演目であることをから選択しました。</p> <p>琉球舞踊、組踊こうした沖縄独自の伝統芸能があることを児童・生徒さんには知っていただき、あらためて自分たちの都道府県や地域の郷土芸能や、お祭りや年中行事との違いを知ることができるでしょう。</p>			
児童・生徒の参加または体験の形態	<p>※番号は、本公演演目の番号と一致しています</p> <p>【第一部】</p> <p>1、ご挨拶</p> <p>・沖縄方言で「こんにちば」にあたる言葉として、男性は「ハイサイ」女性は「ハイタイ」言います。参加者全員で一緒に元気よく言ってみましょう。</p> <p>・ワークショップの際に、お渡した塗り絵をお預かりして、舞台の背景の紅型幕と一緒に会場の舞台装飾とします</p> <p>・沖縄県の方言を二択のクイズ形式で出題します。自分たちが暮らす地域の言葉との違いを考えてみてください</p> <p>●小学生の国語で学ぶ「方言と共通語」を学びます、共通語は地域を超えて通じる言葉ですが、方言は地域に限り使用され地域の風土や文化に根付いた言葉であることを知っていただきます。また紅型塗り絵はワークショップ参加者以外の児童生徒にも参加できる取り組みとして行います。紅型とは沖縄の伝統的な染色技法で、紅型のデザインは琉球舞踊や組踊の衣装や舞台の背景幕としても使われていることをご紹介します。</p> <p>3、琉球舞踊の体験</p> <p>・琉球舞踊「四つ竹」(よつだけ)を鑑賞する前に女踊りの所作を体験します。</p> <p>ワークショップの際に体験したことを振り返っていただきます。また本公演のみ鑑賞の児童生徒さんに琉球舞踊に初めて触れる体験となります。</p> <p>●体育の授業で体幹を鍛えるトレーニングがありますが、琉球舞踊の女踊りは体幹を使つての舞踊であることを本公演鑑賞者全員に感じていただきます。</p> <p>【第二部】</p> <p>6、代表児童・生徒の演舞発表と体験「万歳敵討」</p> <p>・代表児童生徒は、舞台裏で黒い打掛けに帯を締めて、白足袋を履き、右手にチーグーンを持ち、謝名の子役で演舞(セリフ・踊り)を発表します。立方、地謡の皆さんと共演です。</p> <p>・代表児童生徒が支度をしている間に、高平良御鎖と謝名の子と兄弟のセリフを言ってみよう。特徴をとらえて声に出してみてください。</p> <p>●代表の児童生徒さんがワークショップでお稽古した演舞発表となります。地謡の演奏に合わせて組踊の三要素「唱え」「音楽」「踊り」を意識して体験することで、演舞をする様々な難しさや大変さを感じただけのことでしょう。</p>				
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	500名程度未満		
		鑑賞人数目安	500名程度未満		

ワークショップの内容	<p>本公演演目</p> <p>原作/作曲</p> <p>脚本</p> <p>演出/振付</p>	<p>【第一部】</p> <p>1、ご挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の紹介、沖縄県の風土や地理、歴史の紹介、紅型塗り絵の紹介、沖縄ことばクイズ <p>2、楽器紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップで紹介した三線に加え、箏、笛、胡弓、太鼓それぞれの役割と音色、構造を紹介します <p>3、琉球舞踊の体験</p> <p>4、琉球舞踊「四つ竹」の鑑賞方法と楽しみ方のご紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内役が見どころポイントをお伝えします <p>5、琉球舞踊「四つ竹」の鑑賞 種類:古典女踊り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振付・監修:志田房子 国指定重要無形文化財「琉球舞踊立方」(各個認定)人間国宝、琉球舞踊重踊流宗家 <p>【第二部】</p> <p>6、代表児童・生徒の演舞発表と体験 「万歳敵討」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振付・音楽:沖縄伝統組踊「子の会」 <p>7、組踊「万歳敵討」の鑑賞方法と楽しみ方のご紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内役が見どころポイントをお伝えします <p>8、組踊「万歳敵討」の鑑賞 種類:仇討物／作者:田里朝直／初演:1756年尚穆王冊封の宴で上演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監修:宮城能鳳 国指定重要無形文化財「組踊立方」(各個認定)人間国宝、宮城本流鳳乃會家元 <p>9、カーテンコール 感想発表や質問コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本公演の振り返りの映像をご覧ください。映像終了後、出演者全員が舞台に登場し、案内役が公演を通して伝えたかった事や学んでいただきたいことをお伝えします。 <p>※学校のご要望に沿って、記念撮影・お礼の言葉など適宜対応いたします</p> <p>※別添-1:本公演演目参照</p>
	公演時間	90分
	出演者	<p>①沖縄伝統組踊「子の会」会員</p> <p>仲嶺良盛、上原信次、佐喜真一輝、上原崇弘、又吉恭平、仲尾勝成、古波藏正信、國吉啓介、宮里和希、宮里光也、伊藝武士、比嘉大志、知花令磨、山城峻称、佐久田朝太、徳田泰樹、棚原健太、大城建太郎、高井賢太郎、下地心一郎、岡本凌、比嘉克之、玉城慶、金城亮太、澤岬安樹、兼箇段翔、新垣勝裕、町田倫士、堀川裕貴、國場海里、森山康人、森山和人、伊波心、比嘉誠伍、久保田諒、加屋本真士、波平宇宙、</p> <p>②子の会OB・賛助</p> <p>新垣悟、川満香多、玉城和樹、池間北斗、入富西諭、喜納吏一、大城貴幸、岸本隼人、平良大、横目大通、久志大樹、島尻紀希、西村綾織、宮里香澄、古謝渚、仲里綾香</p> <p>③琉球舞踊「重踊流」</p> <p>志田真木、前田恵、平木澄恵、姫野多美、知念捷</p> <p>①②より17名、③より3名</p>
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度／名	【出演者】	<p>大城建太郎(沖縄伝統組踊「子の会」会長)</p> <p>平成27年3月沖縄県立芸術大学大学院 音楽芸術研究科舞台芸術専攻琉球古典音楽専修 修了</p> <p>平成29年3月国立劇場おきなわ第四期組踊研修 修了</p> <p>令和2年4月～令和7年3月沖縄県立沖縄工業高等学校 非常勤講師(郷土の音楽)</p> <p>令和3年4月～沖縄県立南風原高等学校郷土文化コース 非常勤講師(郷土の音楽)</p> <p>令和3年4月～沖縄県立泊高等学校午前部 非常勤講師(郷土の音楽)</p> <p>令和5年4月～沖縄県立芸術大学 非常勤講師</p> <p>令和7年5月～沖縄伝統組踊子の会 会長</p>
	【監修者】	<p>志田真木(琉球舞踊重踊琉二世宗家)</p> <p>沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科修士課程修了</p> <p>2005年琉球舞踊「真木の会」にて第60回記念文化庁芸術祭新人賞</p> <p>2008年沖縄タイムス芸術選賞大賞</p> <p>2009年琉球舞踊「真木の会」にて第64回文化庁芸術祭優秀賞</p> <p>2015年琉球舞踊「真木の会」にて第70回文化庁芸術祭大賞</p> <p>2018年千代田女学園 創立130周年 特別功労賞</p> <p>2019年第76回全国舞踊コンクール優秀指導者賞</p> <p>2022年第73回芸術選奨文部科学大臣を受賞</p> <p>宮城能鳳(組踊監修)</p> <p>琉球舞踊宮城本流鳳乃會家元、2006年重要無形文化財組踊立方保持者(人間国宝)に認定、2019年日本芸術院賞を受賞</p> <p>志田房子(琉球舞踊監修)</p> <p>琉球舞踊重踊流宗家、2021年重要無形文化財「琉球舞踊立方」各個認定保持者(人間国宝)、2019年文化庁長官表彰</p>

本公演・ワークショップの内容	本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 20 名 スタッフ: 6 名 合 計: 26 名		運搬		積載量: 2 t 車 長: 4,7 m 台 数: 1 台			
	本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間		時間程度	
		到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
		9時30分前後	9時30分～11時30分		13時30分～15時	10分	15時～16時	16時	
		※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
	本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月	
		10日		10日		10日		10日	
		10月		11月		12月		1月	
		10日		10日		10日		10日	
		※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		80日	
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)		体育館のステージを舞台として使用した状態							
									
		(上の写真) ●ステージ上の正面に、背景パネルを立てます。 ●フロアの右側に演奏場所をつくります。 ●フロアの左側にスクリーンを立てます。 ●ステージ上の使用スペース 横5.4m 奥行2.7m							
著作権、上演権等 の許諾状況		各種上演権、使用権等の許諾手続の要 否		該当なし		該当コンテンツ名			
		該当事項がある 場合	権利者名			許諾確認状況			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」】

ワークショップの
ねらい

琉球国時代に生まれた琉球舞踊と組踊は、沖縄独自の伝統芸能です。
このワークショップでは、琉球舞踊と組踊の歴史や成り立ち、どのような特徴があるかを学ぶだけでなく、実際に体を動かす様々な体験を通して、子供たちが琉球舞踊と組踊に親しむきっかけとなることを目指しています。本公演で鑑賞する琉球舞踊「四つ竹」と組踊「万歳敵討」の一部を体験、鑑賞することで、児童・生徒は踊りの動きや手の使い方、セリフの言い方など、様々な表現方法を体験的に学ぶことができます。これらの体験を通して、本公演をより深く楽しむための準備となる学びと体験の時間になりたいと考えています。
伝統芸能は「なんだか難しそう」と思われがちですが、初めての出会いが非常に大切だと考えています。このワークショップが終わる頃には、「難しい」と思っていた気持ちが「楽しい！」に変わることを目指しています。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

200名程度

ワー
ク
シ
ョ
ッ
プ
の
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

◆ワークショップ開始前の準備
ホワイトボードもしくは黒板に、団体名、参考資料などテキストを貼っておきます
展示物:獅子頭、馬頭、チーグシ、三線、四つ竹、三線の皮(ニシキヘビ)、カンカラ三線
指導者は着物に着替え、児童・生徒をお迎えします

【1単位目(1コマ)】時間40～50分

●「ご挨拶、礼儀作法と導入説明」

・ワークショップを始めるにあたり、伝統文化に触れる上での礼儀作法の大切さについてお話しします。
・琉球舞踊、組踊いずれも、人から人へ受け継がれてきました。そうした先人への感謝の気持ちを込めて、あらためて姿勢を正してご挨拶を行います(例:「よろしくお願ひします」)。
・指導者が、名前と役割を紹介します。続いて本事業の紹介と、ワークショップで学んでいただくことを、プログラム順にご紹介します。

●「琉球舞踊と組踊を知る」

琉球舞踊と組踊は、どちらも沖縄独自の伝統芸能です、成り立ちや歴史的背景、演劇的、舞踊的な特徴やテーマの違いをお伝えします。

●「楽器紹介」

琉球舞踊と組踊の上演において重要な役割を担う音楽に焦点を当て、その中心である三線の伝来や歴史、特徴を紹介した後、組踊「万歳敵討」の劇中に演奏される「坂本節」を鑑賞していただきます。

●「琉球舞踊を体験」

・琉球舞踊「四つ竹」の抜粋を鑑賞し、その歌詞、あらすじ、四つ竹の鳴らし方、歩みとカマエの姿勢(女立)を紹介した後、三線の演奏に合わせて四つ竹を手に持ち、全員で踊りを体験します。

●「組踊を体験」

・組踊「万歳敵討」の抜粋を鑑賞し、そのあらすじと組踊の3要素「セリフ」「音楽」「踊り」を紹介した後、三線の演奏に合わせて全員で、同演目の役柄ごとの構え、歩み、唱えを体験します。

●「ワークショップの振り返りとご挨拶」

*1単位目のワークショップを振り返り、感想や質問を聞く時間を設けます。
*ワークショップの最後に、姿勢を正してご挨拶をして終了します。

【2単位目(1コマ)】時間40～50分

●本公演での共演・参加に向けた、より実践的な練習と準備を行う時間です

Aチーム「組踊『万歳敵討』の練習」

*ステップ1 児童・生徒は足袋を着用します。
*ステップ2 「万歳敵討」共演用の抜粋版を鑑賞します。
*ステップ3 兄弟の役柄に分かれて唱え、歩み、舞踊を繰り返し練習します。
*ステップ4 通してリハーサルをします。

Bチーム「紅型の塗り絵を制作」

*組踊と紅型の繋がりについてのお話をした後、2種類の塗り絵から好きなものを選んで制作してください。Bチームの皆さんの塗り絵は、本公演当日舞台装飾として飾らせていただきます。ワークショップ参加者以外の児童生徒さんごも参加頂けます。

ワークショップを振り返り

*2単位目のワークショップを振り返って、感想や質問を聞かせて下さい。

その他ワークショップに関する特記事項等

・ワークショップで、学んだことや体験したことを各教科の学びに活用いただけるワークシートをお渡し致します。

・本公演演目で使用される音楽を収録したCDをお渡しします。（給食や掃除の時間などに校内で流してください）

・ワークショップ参加の整列隊形は、普段行われている通りで結構です。

琉球舞踊について、国立劇場おきなわのホームページから、以下のサイトをご紹介します。

・<https://www.nt-okinawa.or.jp/traditional-okinawan-performing-arts/ja/ryukyudance.html>

・<https://www.nt-okinawa.or.jp/okinawan-traditional-performing-arts/ryukyuan-dance>

組踊について、国立劇場おきなわのホームページから、以下のサイトをご紹介します。

・<https://www.nt-okinawa.or.jp/traditional-okinawan-performing-arts/ja/kumiodori.html>

・<https://www.nt-okinawa.or.jp/okinawan-traditional-performing-arts/kumiodori>

・<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc19/index.html>

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		条件なし		主幹引き込み電源容量			60 A以上
舞台設置面積	間口	5.4	m	奥行	3.6	m	
	高さ	条件なし	m				
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応			可
搬入間口の広さ	幅	1.7	m	高さ	1.7	m	
遮光の要否	遮光要件なし		緞帳の要否			不要	
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定				
			ピアノを使用しない場合の移動の要否				
搬入車両(トラック等)の横づけ	横づけ要件なし		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			m以内	
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台			
搬入車両の大きさ	車幅	2	m	車長	4.7	m	
備考							

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	不要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	不要	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	40分	ワークショップの2単位目(2コマ目)	組踊のお稽古	
ワークショップ						
本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	40分	本公演当日の午前中	組踊のリハーサル		
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

別添

なし

【公演団体名 沖縄伝統組踊「子の会」】

【本事業を通じて実現したいこと】

琉球舞踊や組踊といった地域固有の伝統芸能は、その鑑賞機会が極めて限定的です。だからこそ、子どもたちにとってこれらの芸能との最初で最も印象深い出会いとなることを目指します。私たちは、本事業を通じて、子どもたちが琉球舞踊と組踊という沖縄独自の伝統芸能に深く触れ、心豊かな体験を得ることを最も重視します。

また、子どもたち一人ひとり「誰もが取り残されることのない」学びと感動の機会を提供することを使命としています。

私たちは、琉球舞踊や組踊が持つ美しさや歴史的背景に加え、その根底に流れる日本文化特有の「型」「間」「礼」の精神を大切に伝え、ワークショップにおける丁寧な指導と実践を通して、子どもたちが日本人としての美意識や規範意識を体感し、この事業全体が伝統芸能の普及・振興に加え、次代を担う子どもたちの内面に日本人のアイデンティティの種を蒔き、未来へと繋ぐ強い使命感のもと、謙虚かつ真摯な姿勢で実施することを目指します。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

ワークショップでは、単に知識を伝えるだけでなく、出演者自身が積極的に子どもたちとコミュニケーションを図りながら、五感を使い体を動かす体験を促していきます。これにより、歴史や特徴といった座学的な学びが、実際の踊りや所作、セリフ、そして音楽に触れる立体的な体験へと昇華され、子どもたちが伝統芸能を「楽しい!」と感じ、自ら親しむきっかけを創出するでしょう。

また、ワークショップでは従来の鑑賞や実演体験に留まらず、子どもたちが主体的に参加できる多様なアプローチを重視しています。具体的には、紅型(びんがた)の塗り絵といった創造的な活動を取り入れます。これにより踊りや演技に興味を持つ子どもはもちろん、絵を描くことやものづくりに興味がある子ども、それぞれの関心から沖縄の文化へと自然に親しむことができます。

ワークショップの際に本公演で演奏される音楽を収録したCDをお渡しします。給食や掃除の時間などに校内で流して頂くことで本公演までに子供たちが耳馴染みとなるような取り組みとなります。

そして本公演では、ワークショップで培った基礎知識と実践的な体験を土台として、子どもたちが自身の豊かな想像力を最大限に働かせ、舞台芸術を鑑賞する時間と位置づけます。出演者は、日々の研鑽を積んだ「本物の舞台芸術」を披露することで、子どもたちにとって生涯忘れられない貴重な出会いの場となるよう、真摯な姿勢で舞台に臨みます。

こうしたことから、子どもたちが伝統芸能の奥深さに触れ、文化への敬意と感動を育むとともに、鑑賞力を養う機会を提供することに、私たちは全力を注いで参ります。

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

本事業への応募理由等

事業を適切かつ
円滑に実施するための
工夫

【学校との連絡調整について】

当方の担当者より、学校ご指定のメールアドレスへ、ワークショップ・本公演それぞれの内容や確認事項についてまとめたシートをお送りし、その後に実施校に御電話をします。その際にご担当の先生に繋いでいただけるベストな時間を伺って、以降はそのタイミングに御電話します。初めての開催学校やご担当の先生には本事業についてのご説明もさせていただきます。

本公演開催日、ワークショップ開催日の日程調整はアンケートフォームをお送りし、手間をお掛けしないように致します。日程調整の際に学校行事、学校周辺の環境や天候などにつきましても詳しく伺い、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築いていきます。御電話でお話した内容は確認の為、あらためてメールでお送りします。

速やかな連絡体制として固定電話、携帯電話、固定電話の携帯電話への転送、メールなどでご対応いたします。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

ご担当の先生から、対象児童生徒の学校の様子や環境、普段ご留意されて取り組まれていらっしゃる対応や行動を詳しく聞かせていただき、ワークショップ、本公演で学校に伺う前に出演者とスタッフで共有し取り組ませて頂きます。

特別支援学校への取り組みとしては、初めにご担当の先生から詳しく環境や状況をお聞きしたうえで、ワークショップ、本公演の開催の様子をご確認いただき、難しい取り組みなどがあれば事前に取り組み方を変えるように準備致します。また過去に本事業において当方の取り組みなどもお伝えして、安心してワークショップ、本公演を開催できるよう致します。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

ワークショップ後に、ワークシートとCDをお渡ししています。これらは本公演後にも教科の学びに活かしていただける内容になっています。教室に掲示していただいたり、先生方の補助教材としても継続的に沖縄の芸能に触れて頂けます。

リンク先

No.2

【公演団体名

沖縄伝統組踊「子の会」

】

本公演の様子

- ①ごあいさつ
沖縄県の紹介
紅型塗り絵の紹介
沖縄ことばクイズ



- ②地謡の楽器紹介
沖縄音楽ミニコンサート



- ③琉球舞踊体験

- ④琉球舞踊「^よだけ「四つ竹」の紹介

- ⑤琉球舞踊「四つ竹」



- ⑥組踊『^{まんざいてきうち}万歳敵討』
代表児童・生徒の
共演・演舞発表



- ⑦組踊「万歳敵討」の作品紹介と
あらすじのお話



- ⑧組踊「万歳敵討」



- ⑨カーテンコール
感想インタビュー
質問コーナー

リンク先

No.3-①

【公演団体名

沖縄伝統組踊「子の会」

】

①ご挨拶と
本事業についてのお話



②琉球舞踊と組踊について
③楽器（三線）の紹介と鑑賞



④琉球舞踊「^よ四つ竹^{だけ}」の
鑑賞と体験



⑤組踊「^{まんざいてきうち}万歳敵討」の
鑑賞と体験



ワークショップの様子

⑥「万歳敵討」共演用、抜粋版の鑑賞とお稽古

